

(様式1) 実施報告書-プログラムB

1 補助事業者情報

団体名	神戸市
-----	-----

2 事業の概要

1. 事業の名称	神戸市における地域日本語教育体制整備事業
2. 事業の期間	2019年7月1日～2020年2月29日
3. 事業実施前の現状と課題	<p>神戸市には、約48,000人(平成31年3月末)の外国人が居住しており、近年、ベトナム人の急増など在住外国人は増加傾向にあり、過去3年間で約4千人増加している。また、新たな在留資格の創設など、アジアを中心とする多様な国籍の外国人のより一層の増加が見込まれる。それに伴い、日本語能力が十分でない外国人も増加してきているが、とくに、外国人が地域社会で日本人とともに暮らしていくという面においては、日本語が全くわからないために、日本人や地域社会と接することが困難となり、日本の生活文化や習慣、制度を学ぶ機会を失し、地域内での共生が阻害されている。そのため、在住外国人に対する一定の日本語能力を習得する機会を提供する仕組みを構築していく必要がある。</p> <p>本市ではすでに、外国人に対する日本語学習の支援の場として、神戸国際協力交流センターによる「マンツーマンによる日本語学習支援」や市内各所で実施されている「日本語教室」(約25箇所)、兵庫県国際交流協会による「日本語講座」等があり、各教室が外国人の学習者を受け入れ、支援に尽力いただいている。一方、これらの教室の運営にあたり、日本語教育コーディネーターの業務を担当する方が不在であったり、ボランティアが減少傾向にあるといった課題や日本語学習が必要な外国人に十分に情報が届いていないことや在住外国人のニーズにあったサービスのあり方といった課題もある。</p> <p>今後より一層外国人が増加していくという状況を踏まえ、外国人が孤立せず地域と共生していくためにも、上記のような課題に対応しつつ市内の教室が有機的に連携できるような体制づくりが必要であると考えている。</p>
4. 目的	<p>日本語能力が十分でないことで、日本人や地域社会と接することが困難で、生活文化や習慣、制度を習得できず、地域内での共生が阻害されることがますます増える在住外国人とその家族、特に子どもたちやその母親など、真に日本語を学ぶことが必要とされる様々な境遇の在住外国人に対して、一定の日本語能力を習得する機会を提供する仕組みを構築していく。このことを通して、神戸市における日本語教育に関する総合的な体制作りを行う。</p>

3 事業の実施体制

(1) 実施体制

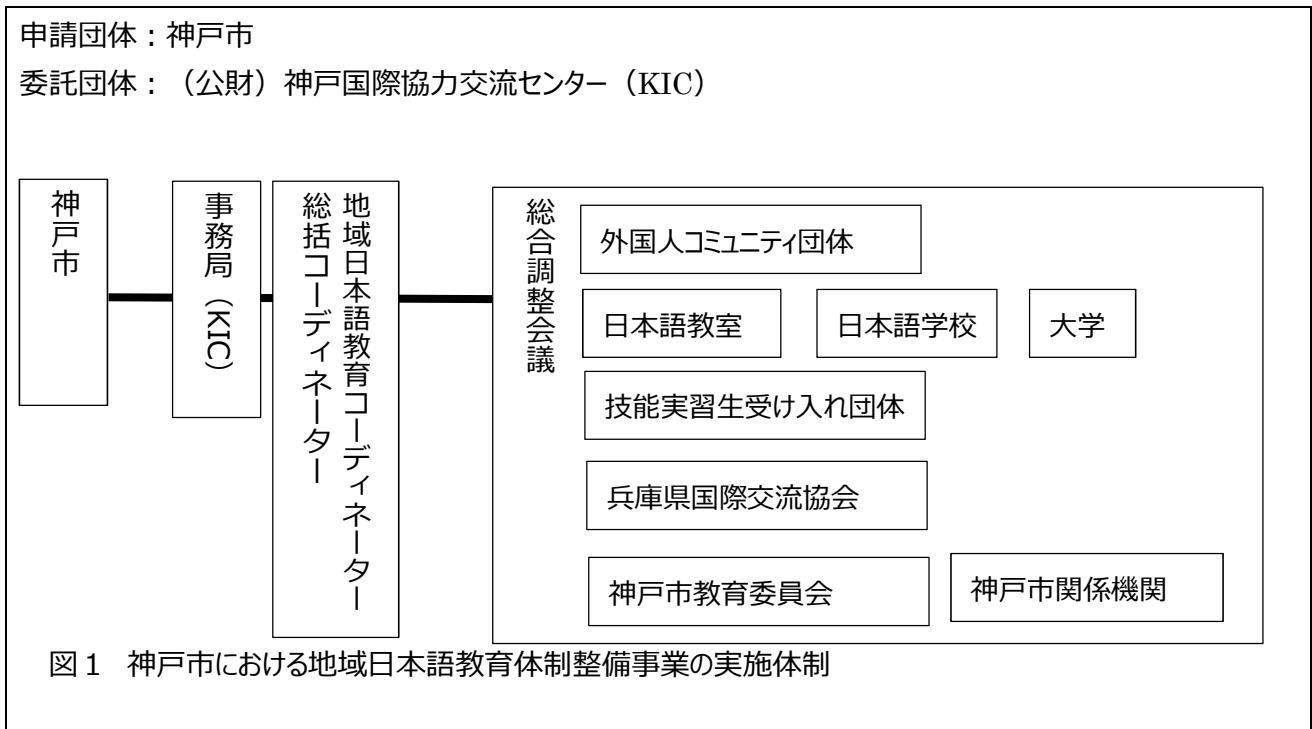


図1 神戸市における地域日本語教育体制整備事業の実施体制

《事業の中核メンバー》

	交渉状況	氏名	所属	職名	役割
1	承諾済	尾形 文	兵庫日本語ボランティアネットワーク 神戸松蔭女子学院 大学/兵庫教育大学	代表 非常勤講師	総括コーディネーター 兼 地域日本語教育コーディネーター
2	承諾済	井上 貴	神戸国際協力交流センター	運営課長	
3	承諾済	坂本 秀明	神戸市国際課	担当係長	※令和元年6月～11月担当
4	承諾済	中井 学	神戸市国際課	担当係長	※令和2年1月～担当

(2) 域内の市区町村，関連団体等との連携・協力体制

市内の各日本語学校、日本語教室のネットワークを構築するとともに、各大学、外国人支援組織・団体等との連携協力体制を構築した。

4 2019年度の事業概要

1. 2019年度の実施目標			
市内の日本語学習者の実態を把握するとともに、必要な外国人が学習機会につながる仕組み及び標準的な学習プログラムを構築する。このために市内の日本語学校、日本語教室とのネットワークの構築及び日本語教育を必要とする外国人の実態を確認するとともに、生活者としての外国人とのつながりを持つ組織、団体を通じて日本語教育のニーズを把握する。			
2. 実施内容			
(取組1) 総合調整会議の設置			
①構成員			
	氏名	所属	職名
1	今井 俊幸	神戸市海外ビジネスセンター	所長
2	鳥本 敏明	日本ベトナム友好協会兵庫県連	常任理事
3	安井 裕司	日本経済大学	教授
4	奥田 純子	コミュニカ学院	学院長
5	岩出 郁美	中央区まちづくり課	係長
6	仁ノ内 智	教育委員会学校教育課	指導主事
7	延原 臣二	東灘日本語教室	代表
8	遠藤 知佐	兵庫県国際交流協会多文化共生課	日本語教育指導員
9	奥 優伽子	NPO 法人 神戸定住外国人支援センター	日本語コーディネーター
10	ズオン ゴック ディエップ	ベトナム夢 KOBE	代表
11	荒井 秀行	阪神金属協同組合	事務局長
12	丹沢 靖	神戸市国際課	課長
②実施結果			
実施回数	2回		
実施スケジュール	第1回 令和元年7月23日(火) 14:00~16:00 第2回 令和2年2月19日(水) 14:00~16:00		
主な検討項目	第1回会合 令和元年度の事業実施計画の説明と意見交換 第2回会合 令和元年度の事業実施報告と次年度に向けての意見交換		
(取組2) 総括コーディネーターの配置			
文化庁主催の「地域日本語教育コーディネーター研修」の受講者の中から採用した。地域日本語教育コーディネーターを兼務。			
(取組3) 地域日本語教育コーディネーターの配置			
総括コーディネーターと兼務。			

(取組 4) 地域日本語教育の実施			
実施箇所数	2ヶ所	受講者数	24人
活動 1	<p>【名称】 託児付きゼロ初級クラス</p> <p>【目標】 よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができる。相手がゆっくり、はっきりと話して、助け舟を出してくれるなら簡単なやりとりができる。</p> <p>【実施回数】 22回 (全 37.25 時間、1 回平均 1.7 時間)</p> <p>火 : 10 : 15～11 : 45</p> <p>水・金 : 10 : 15～12 : 00、ただし、10 月 30 日と 11 月 1 日は、10 : 15～12 : 15</p> <p>【受講者数】 7 人 (7 人×1 か所) : 中国 3 名、カナダ 2 名、メキシコ 1 名、スペイン 1 名</p> <p>【託児利用者数】 4 名</p> <p>【実施場所】</p> <p>火・金 : ふたば国際プラザ</p> <p>水 : ふたば学舎 1-3 教室</p> <p>【受講者募集方法】</p> <p>チラシを作成し、以下の方法で募集をした。</p> <p>〈紙媒体で配布〉</p> <p>兵庫県国際交流協会、中央区 (社協、まちづくり推進課、子育て支援課)、兵庫区 (総務課、まちづくり課、長田区 (社協、まちづくり課)、ふたば国際プラザ、ふたば学舎、ベトナム夢 KOBE、神戸ベトナム人会、多文化共生センターひょうご、勤労会館</p> <p>〈データを掲載〉</p> <p>ベトナム語 Facebook、神戸国際協力交流センターHP</p> <p>【内容】</p> <p>初期レベルの日本語能力を効率的に伸ばすことを目指し、有資格の日本語教師により 1 週間に 3 回という集中的学習を実施した。</p> <p>主教材 : 国際交流基金 (2013) 『まるごと 入門 A1 かつどう』三修社</p> <p>主教材を中心に、文化庁の標準的なカリキュラム案等を活用した。シラバスは以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ひらがな、かたかな ② 自己紹介 (わたし、家族) ③ 食べ物 (何が好きですか、どこで食べますか) ④ 家 (部屋がいくつありますか、部屋には何がありますか) ⑤ 生活 (何時に起きますか、いつがいいですか) ⑥ 休みの日 (趣味は何ですか、一緒に行きませんか) ⑦ 町 (どうやって行きますか、有名なお寺です) ⑧ 買い物 (何がほしいですか、これはいくらですか) ⑨ 休みの日 (楽しかったです、どこに行きたいですか) 		

	<p>【評価方法】</p> <p>主教材の Can-do リストである「にほんごチェック」と、JF 日本語スタンダードを活用した。</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無： 主教材『まるごと入門 A1』に対応させ、以下の教材を活用した。</p> <p>(08) 物品購入・サービス利用 (10) 電車、バス、飛行機、船等を利用する (11) タクシーで移動する</p>
活動 2	<p>【名称】 託児付き初級日本語クラス</p> <p>【目標】</p> <p>レベル別に 3 クラス開催し、主教材に記載している「JF 日本語教育スタンダード」に基づき、下の目標を設定した。</p> <p>〈初級 1〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な欲求を満足させるための良く使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。 ・自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。 ・もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け舟を出してくれるなら簡単なやりとりをすることができる。 <p>〈初級 2 と初級 3〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。 ・簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。 ・自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。 <p>【実施回数】 各クラス共通 20 回（1 回 2 時間）</p> <p>【受講者数】</p> <p>初級 1 4 人（4 人×1 か所）：中国、インド、モーリタリア、ヨルダン 初級 2 10 名（10 名×1 か所）：中国 7 名、カナダ 1 名、スペイン 1 名、ブラジル 1 名 初級 3 3 名（3 名×1 か所）：中国、スペイン、パキスタン</p> <p>【託児利用者数】</p> <p>初級 1 0 名 初級 2 4 名 初級 3 2 名</p> <p>【実施場所】</p>

(公財)神戸国際協力交流センター

【受講者募集方法】

〈紙媒体で配布〉

兵庫県国際交流協会、神戸市内日本語教室 24ヶ所、中央区（社協、まちづくり推進課、子育て支援課）、兵庫区（総務課、まちづくり課、長田区（社協、まちづくり課）、ふたば国際プラザ、ふたば学舎、ベトナム夢 KOBE、神戸ベトナム人会、多文化共生センターひょうご、勤労会館

〈データを掲載〉

神戸国際協力交流センターHP

【内容】

初級レベルの日本語能力を効率的に伸ばすことを目指し、有資格の日本語教師により 1 週間に 3～5 回程度の集中的学習を実施した。実施回数が週により異なったのは、会場の空状況の都合である。

主教材を基本に、文化庁の標準的なカリキュラム案等を活用した。各クラスのシラバスは以下のとおりである。

〈初級 1〉

- ⑩ ひらがな、かたかな
- ⑪ 自己紹介（わたし、家族）
- ⑫ 食べ物（何が好きですか、どこで食べますか）
- ⑬ 家（部屋がいくつありますか、部屋には何がありますか）
- ⑭ 生活（何時に起きますか、いつがいいですか）
- ⑮ 休みの日（趣味は何ですか、一緒に行きませんか）
- ⑯ 町（どうやって行きますか、有名なお寺です）
- ⑰ 買い物（何がほしいですか、これはいくらですか）
- ⑱ 休みの日（楽しかったです、どこに行きたいですか）

〈初級 2〉

- ① 私と家族（どこに住んでいますか、趣味なんですか）
- ② 季節と天気（日本はいま春です、いい天気ですね）
- ③ 私の町（この公園は広くてきれいです、まっすぐ行ってください）
- ④ 出かける（10 時でもいいですか、もう夜景を見に行きましたか）
- ⑤ 外国語と外国文化（日本語は発音が簡単です、いつか日本に行きたいです）
- ⑥ 外で食べる（何を持っていきますか、おいしそうですね）
- ⑦ 出張（田中さんに会ったことがあります、これ使ってもいいですか）
- ⑧ 健康（体操するといいですよ、走ったり泳いだりしています）
- ⑨ お祝い（誕生日にもらったんです、パーティーがいいと思います）

〈初級3〉

- ① 新しい友達（いい名前ですね、眼鏡をかけている人です）
- ② 店で食べる（おすすは何ですか、どうやって食べますか）
- ③ 沖縄旅行（帽子を持って行ったほうがいいですよ、イルカのショーが見られます）
- ④ 日本祭（雨が降ったらどうしますか、コンサートはもう始まりましたか）
- ⑤ 特別な日（お正月はどうしていましたか、いいことがありますように）
- ⑥ ネットショッピング（掃除機が壊れてしまったんです、こちらのほうが安いです）
- ⑦ 歴史と文化の町（このお寺は14世紀に建てられました、この絵はとても有名だそうです）
- ⑧ 生活とエコ（電気がついたままですよ、フリーマーケットで売ります）
- ⑨ 人生（この人、知っていますか、どんな子供でしたか）

【評価方法】

主教材のCan-doリストである「にほんごチェック」と、JF日本語スタンダードを活用した。

標準的なカリキュラム案等の活用の有無：

クラスごとに主教材と対応させて、以下の教材を活用した。

初級1：(08) 物品購入・サービス利用、(10) 電車、バス、飛行機、船等を利用する

(11) タクシーで移動する

初級2：(02) 薬を利用する

(03) 健康に気をつける

(12) 徒歩で移動する

(44) 余暇を楽しむ

初級3：(46) インターネットを利用する

(取組5) 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組

(1) 【名称】日本語教室への聞き取り

【実施箇所数】11教室

【訪問履歴】

表1 神戸市内日本語教室訪問履歴

教室名	訪問日時
①東灘日本語教室	7月10日(水) 14:00~15:30
②楽しく学ぶ親子ベトナム教室	7月14日(日) 14:30~16:00
③神戸中国帰国者日本語教育ボランティア協会ユニティ教室	9月13日(金) 14:20~16:00
④にほんごひろば岡本	9月18日(日) 10:30~11:30
⑤マサヤンタハナン	9月22日(日) 13:00~14:00

⑥だんらん（来館）	10月30日（水）11：00～12：00
⑦羊歩の会	11月15日（金）11：45～12：45
⑧南須磨日本語教室（来館）	11月15日（金）14：00～15：30
⑨神戸学生青年センター六甲奨学基金日本語サロン	11月18日（月）13：30～14：10
⑩中国「残留日本人孤児」を支援する兵庫の会岡本教室	11月21日（木）13：30～15：10
⑪こころイレブン日本語教室	1月14日（火）11：00～12：00

【具体的な実施内容】

神戸市内のボランティアによる地域日本語教室の数の把握と、教室への訪問を行った。調査の結果、神戸市内には、ボランティアによる日本語教室は、25ヶ所存在していることがわかった。そこで、7月から順に教室を訪問し、日本語学習活動の様子を見学し、教室の代表やコーディネーターたちへの聞き取りを実施した。

(2) 【名称】区役所などへの聞き取り

【訪問箇所数】 4か所

【訪問履歴】

- ① 和楽寺：長田区ベトナム寺院 10月18日（金）16：10～17：00
- ② 神戸常磐大学 子育て総合支援施設きつと（KIT） 10月16日（水）10：00～11：30
- ③ 長田区役所：まちづくり課、生活支援課 11月27日（水）9：30～12：00
- ④ 東灘区役所 まちづくり課 12月20日（金）10：00～11：00

【具体的な実施内容】

潜在的日本語学習者を掘り起こすために、役所関連や外国人コミュニティ関連の施設を訪問し、聞き取りを実施した。

上記①の寺院は、ベトナム人のコミュニティであることから、日本語教室開催に関連する意見を中心に聞き取りを実施した。

②は、託児施設があるため、今後、託児付き日本語教室を開催する際の連携の可能性を探るため訪問した。

③と④の役所機関には、潜在的日本語学習者の掘り起こしを含めた外国人などに関する情報を得るために訪問した。

(3) 【名称】夜間教室への聞き取り

【訪問日時】 令和2年1月21日（火）18：30～20：30

【訪問先】 神戸市立丸山中学西野分校

【訪問目的】 次年度の夜間中学と連携した日本語教室の実施に向けてのコースデザインのための調査。

【聞き取り内容】

学生の約9割が外国籍である。近年日本語学習を目的に入学を希望する学生が増加しているが、夜間中学はあくまでも教科を学ぶ場であることを説明している。中途退学をする学生の中には、日本語がわからずに辞めた人もいる。夜間中学の入学期間は4月から7月なので、8月以降に来日した人などを、KICの日本語クラスに紹介し、翌年の4月に夜間中学に入学するという流れが考えられる。国語や社会の時間を日本語学習の時間にしているが、どの教師も日本語教育の知識がないため、苦勞している。学年別のホームルームがあるが、授業は各教科別に習熟度で6クラスに分けて実施している。日本語学習もレベル別に6クラスに分

けている。教師のための日本語教育の研修会を実施してほしいという意見もあった。

(4) 【名称】日本語教室連絡会議

【実施回数】 1回

【実施日時】 令和2年1月29日（水）13：30～16：30

【実施場所】 神戸国際協力交流センター 会議室B

【出席人数】 13教室20名、事務局（神戸市職員、KIC職員）11名

【具体的な実施内容】

会議の手順

- (1) 神戸市内における地域日本語教育体制整備事業についての説明
- (2) 出席者自己紹介
- (3) グループワーク

上記(1)では、総括コーディネーターが本事業の説明をし、今後の教室と神戸市との連携、及び教室間のネットワークの強化を提言した。続いて(2)では、神戸市の職員も含めた会議の出席者全員の自己紹介を行った。自己紹介では、教室のこれまでの活動経緯や問題点などを伝える方々もいた。(3)のグループワークでは、教室からの出席者からなる4つのグループと、神戸市職員による1つのグループが、それぞれが「できること・できないこと」を話し合ったあと、「日本語教室にできること・できないこと」と「神戸市にできること・できないこと」に分けて付箋紙に書きホワイトボードに貼りだした。それを、その日のファシリテーターをした総括コーディネーターが、各組織でできないことを誰が埋められるのかを話し合う場を設けた。

その結果、神戸市内の地域日本語教育の体制を整備する際、即時に解決できることと、容易には解決できないことが明確になった。日本語教室だけでは解決できないこと、特に、会場や運営費などに関しては、教室の意見も取り入れながら、神戸市側がどのような支援ができるのかを考えていくことになる。また、教室と神戸市側の両者にできないことに関しては、他の機関との連携も視野に入れて解決していく必要がある。

このようなことが判明したという点で、神戸市の地域日本語教育の体制を整えることにおいて、今後も日本語教室連絡会議を継続することは有効である。

【取組6 日本語教育人材に対する研修】

(1) 【名称】日本語学習サポートセンター（仮称）の試行設置

【設置場所】 神戸国際協力交流センター

【施設の役割】

ボランティアの日本語支援能力の向上のために、コーディネーターが書籍の管理、ボランティアからの相談業務、及び、ボランティア研修の企画・実施をする。

【実施結果】

- ① 書籍の整理：KICには、ボランティアがマンツーマンによる日本語学習支援を行っているKICCという部門がある、そこには日本語教育に関する書籍が約3,200冊所蔵されている

るが、これまで日本語教育の専門家が在籍していなかったため書籍の分類がなされていなかった。今年度、総括コーディネーターが配置されたことで、書籍の分類を実施した。

- ② ボランティアの相談業務：今年度は試行ということで、KICC のボランティア限定で相談業務を実施した。

相談件数・・・9 件

相談内容・・・教材の選択、活動方法の確認など。

(2) 【名称】KICC サポーター研修会

【実施回数】1 回

【実施日時】令和 2 年 2 月 4 日（火）13：00～16：00

【実施場所】神戸国際協力交流センター 特別会議室と会議室 A

【出席人数】合計 46 名（外部講師 2 名、ボランティア 33 名、国際課 3 名、KIC8 名）

【具体的な実施内容】

- ① 「150 年ぶりの開国～にほんご応援のきほんの基、きぼうの希～」
京都日本語学校校長 春原憲一郎氏
- ② 「国内における日本語教育の動向」
文化庁国語課日本語教育専門職 北村祐人氏
- ③ 「神戸市における地域日本語教育体制整備事業」
地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業
総括コーディネーター兼地域日本語教育コーディネーター 尾形文
- ④ 質疑応答

3. 成果と課題

(取組 4) 地域日本語教育の実施

〈託児付きゼロ初級クラス・託児付き初級日本語クラス〉

【成果】

両教室とも託児を併設したことで、これまで子供がいるために日本語学習ができなかった親への支援ができた。子供を連れて来たのは母親ばかりではなく、10 月クラスには子連れの父親が参加するケースや、1 月クラスには子連れの夫婦が参加するケースもあった。

また、授業内容を会話中心にし、比較的緩やかな進度を設定したため、留学生に比べると年齢層が高い学習者にも継続的に学習できたと考える。今回の 2 つのクラスの講師は、大学の講師を中心に選定した。そのことも、途中で学習を断念する割合が少なかった要因と考えられる。

【課題】

今後も、託児を併設した教室を実施する予定であるが、その場合、教室と託児室の 2 つの場所を確保しなければいけない。ふたば国際プラザで開催する場合も、KICC で開催する場合も、他の事業との兼ね合いを考慮する必要があるため、場所の確保が困難である。次年度は、たとえば、1 つの部屋を 2 つに区切ることも選択肢に入れ、進めていく。

(取組 5) 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組

〈日本語教室からの聞き取り・役所関係からの聞き取り・日本語教室連絡会議〉

【成果】

日本語教室や区役所の各機関など、多様な立場の方々から、学習者や、潜在的な学習者に関する情報を得たことで、今後開催すべき教室の形態が見えてきた。また、日本語教室から、教室の運営状況やボランティアに関する情報を得ることができたことで、今後の公的支援の方向性を考える助けとなった。そして、今後本事業を進めていく上で、広い視点や知見が必要であることから、さまざまな方々とのネットワークを築くことが重要になるということを実感した。

【課題】

事業開始当初は、もう少し早い進捗で教室訪問ができると考えていたが、他の業務との関係や、教室との日程調整などをしていくうち、予想以上に困難な業務であることが判明した。来年度は、そのことを踏まえ、より多くの方々への聞き取りを実施すべく、早めに計画を立てなければいけない。

また、日本語教室連絡会議の開催に際し、今年度は参加してくれなかった教室に対しては、教室訪問などの折に、会議への参加を依頼することも肝心である。

〈取組6〉 日本語教育人材に対する研修

〈日本語学習サポートセンターの設置・KICC日本語サポーター研修〉

【成果】

8月から開始したKICCのボランティア限定の相談業務に関しては、相談が殺到した場合は対応できないだろうと考え、広報を緩くした。その結果、7ヶ月で9名ということで、コーディネーターとしては、他の業務との兼ね合いを考えると非常に良いペースだと感じた。実施してみてわかったことだが、ボランティアたちは教材や支援方法のアドバイスを求めはするが、相談時間のほとんどは日頃の支援状況やこれまでのボランティア経験などをひたすら話すことに費やしていた。このような業務を繰り返すうち、ボランティアたちは、相談をしたいのではなく、同業者と話をしたいのだということがわかった。

KICCサポーター研修会は、多角的な視点から日本語教育を学ぶことを推奨している春原憲一郎氏に講演を依頼した。ボランティアたちは、とかく「日本語文法」に着目しがちなので、意識を変えるきっかけになればと考えた。文化庁の北村祐人氏からは、日本語教育に関する国策を中心に、「公認日本語教師」に向けての国の進捗状況を話していただいた。受講者へのアンケートは実施しなかったが、質疑応答では「公認日本語教師」に関することや、日本語学校の質などに関する質問などがあり、演者からの活発なやり取りがみられた。

【課題】

今年度は上記2つの内容は、KICCのボランティアのみを対象にしたが、次年度は、上記の取組を神戸市全域に拡張することになる。その場合、ボランティアの相談件数が急増することもあり得るので、対応策を考えておく必要がある。

研修会に関しては、本事業の方向性や目的を踏まえ、それに合ったボランティアを育てるべく、内容を検

討していく必要がある。

(事業全体のまとめ)

今年度、日本語教室や区役所関連の方々など、外部の方々からさまざまな情報を得たことで、今後、本事業が対象と考えなければいけない日本語学習者たちが非常に複雑であるということが明らかになった。複雑系に対応するには多様性が必要である、といわれていることを肝に銘じ、次年度からも、多角的な視点を持つ者たちが大きなチームを組み、さまざまな意見を調整しながら事業を計画し、実行できるようにしていく必要を改めて感じた。

4. 今後の展望

今年度実施した取り組みを踏まえて、今後は、以下のように事業を展開していく。

◇ 地域日本語教育の実施

今年度、一定の成果を得た「託児付き初級クラス」に関しては、4クール程度に実施回数を増加する。また、より多くの日本語学習希望者が日本語学習を実現できるよう、夜間中学と連携しながら、夜間クラスも別途実施する。

◇ 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組

今年度は25教室のうち11教室しか聴き取りができなかったため、引き続き教室訪問を実施し、教室運営や日本語支援に関する問題点などを聴き取る。また、潜在的日本語学習者の掘り起こしのために、役所関係の機関への聴き取りも引き続き実施する。そして、神戸市内の地域日本語教育の大部分を担っている日本語教室のネットワークを強化すべく、「日本語教育連絡会議」も継続していく。

◇ 日本語教育人材に対する研修

今年度試行設置した「日本語学習サポートセンター（仮称）」での相談業務の対象を神戸市内全域に拡張して本設置し、日本語教室やボランティアが抱えている問題の解決に向けてのサポートを行う。ボランティアの日本語支援能力の向上に関する研修に関しては、今年度は実施しなかった「ボランティア入門講座」や「ブラッシュアップ講座」などを実施する。また、日本語学習者や市内在住の外国人について深く知るための研修会も実施する。

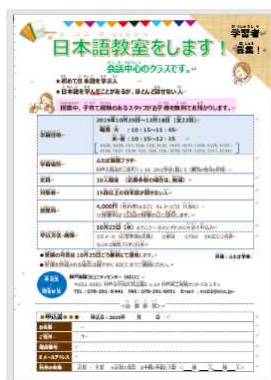
【参考資料】※HPに掲載する添付資料や成果物があれば記載してください。

【取組1 ゼロ初級クラス チラシ】

【取組2 初級日本語クラス チラシ】

表

裏



【KICC 日本語サポーター研修会 チラシ】

 (公財) 神戸国際交流センター

【プログラム】

ついに動き始めた日本語研修！
国の動きにより、神戸市も動き
ます！

1 「150年ぶりの開国
にほんご応援のきほんの基・きぼうの希」
京都日本語学校校長 春原遼一郎氏

2 「国内における日本語教育の動向」
文化庁国語課日本語教育専門職 北村祐人氏

3 「神戸市における地域日本語教育体制整備」
KICC総括コーディネーター 尾形文氏



2020年2月4日 (火)
13:00~16:00
KICC会議室にて

KICC日本語サポーター研修会

参加費 : 無料 ※交通費の支給はありません。
参加資格 : KICCサポーター (奨励をお申込みしている方BOKI) 申込受付
1月20日 (月)
定員 : 50名程度 (先着順)

申込方法 : メール または 電話 お住まいの下の申込書にご記入の上カウンターへ
E-mail: kicc03@kicc.jp 電話 : 078-291-8441

※印刷版

2020年2月4日 (火)「KICCサポーター研修会」申込書

お名前	住所欄	申込受付日